



小松重兵衛氏 (五十六歳)

職 業—石炭販賣業
事務長—飯塚勝治氏
経 歴—町議二期 前事務委員
元小頭

小松氏は温良にして調和に富み前町議中の中堅處であつた、今回の選挙戦は爲めに三期を重ねる譯で益々其の眞價を高めてつゝある今度の選挙戦は空前の激しき白兵戦を展開し小松氏危しなどの情勢に小松ファンをばらばらさせたが現状は當選圏に入つたなどの話が有力となつてきた



木田谷平氏 (三十二歳)

職 業—木材製板業
事務長—田島熊次郎氏
経 歴—小學訓導十一年期今春辭す

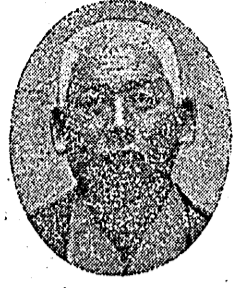
木田氏は教育者育ちに似ず豪放磊落で物に拘泥はらぬ明らかな性情の所有者である、學校を辭め直に町議戦に乗り出すなど實に愉快な早業法である、遠慮情勢も甲の中の成績で立派に當選出来る模様である



立花秀吉氏 (四十五歳)

職 業—藝妓置屋
事務長—佐川喜四郎氏
経 歴—前分會長、區長

氏は一家より兄弟揃つて立候補した人も羨む立派の人で性明朗達達と云ふ明るい感じの人で社交術には妙諦を凝らしてゐる、今回の選挙戦も二人そろつて出馬した爲めに周囲をばらばらさせたものが順調で當選圏内の人と見られてゐる



立花雄七氏 (五十歳)

職 業—漁業家
事務長—金成利惣太氏
経 歴—町議二期 漁業組合理事
縣水産 郡水産議員

氏は小名濱町議中期と云ふ第二位の元老格の人で町議にくつてはならぬ、人なのである性温情に富み友情厚く多数の立花ファンを有す、今回の選挙戦は變て居



比佐政種氏 (四十三歳)

職 業—漁業家
事務長—石井英次郎氏
経 歴—揚操漁業組合理事會計
船機關士生活十四年

比佐氏は機關士より揚操漁業家と躍進した人で潮氣に富み漁業家としては打つて付けの適職であらう町議としての抱負や、こうしたいと云ふ理想は澤山持合せがある、逐鹿状態も甲の中位で當選圏内に入つたらしい、細心の注意は必要だらう



丹計之氏 (四十九歳)

職 業—新聞販賣業
事務長—佐藤藤四野氏
経 歴—前會社社員 上町評議員
前國務調査委員

丹氏は前半生を會社員として過し外交方面には特に秀逸なる手腕を有する人で性圓滑にして調和性に富む、今回の町議初陣は立派の中位に互格の相模を取り既に當選圏の人として囑目されてゐる



小野徳次郎氏 (五十九歳)

職 業—貨物自動車業
事務長—野崎隆之亮氏
経 歴—肥料組合代表議員
自動車組合役員

小野氏は立花氏兄弟と同じく一家より二名の立候補で社交上手と同志の融合性に富む小野氏も少く苦戦の模様であつたが勝氣な氏の事日迫ると共に同情が糾然として集り當選に往來と迄漕付けた、今一息の努力が肝要であらう



田中權次郎氏 (五十歳)

職 業—漁業家
事務長—馬松太郎氏
経 歴—海産物卸商組合理事
前魚肥製造組合理事會計

田中氏は名譽職嫌ひで有名であつたが今回はこの亂立

の中に起つて鹿を追ふ事になつた性敏密にして深遠なる考察力を有する田中氏の出馬は一般より興味を以て迎へられてゐる、戦績も中位で當選組に一般が見て居る模様である



野崎貞行氏 (三十八歳)

職 業—漁業
事務長—川俣喜七氏
経 歴—漁業組合理事
揚操漁業組合長

先代譲りの地盤より初陣として立候補した野崎氏、奇習に富み批判眼の點に至つては天才と言はれてゐる位、先代以上の足跡を遺す人として注目されてゐる、今回の選挙戦に至つては悠々榮冠を贏する事は論議の餘地がない



丹清治氏 (五十七歳)

職 業—醬油醸造業
事務長—小野長壽氏
経 歴—前區長 元軍人分會副會長
金勤勤業帶動者

丹氏は先代譲りの堅實な歩みを進め今日に至つたが性温厚にして謙讓家町議としては最もふさわしい適任者であらう、今度の逐鹿情勢は樂觀を有さな、當選圏を往來すると云ふた有様で油断なく善處するの要がある



野崎昇太郎氏 (五十四歳)

職 業—雜貨商
事務長—比佐勇氏
経 歴—前町議 前區長
信用組合理事

氏には補欠で當選した前町議丈に今度が初陣と云ふに勝手の知れぬ戦争で野崎君の様な理人型の人には第三者より見ると傷たしき感を抱く、今回の戦績は優勢と見る事が出来ない一般の觀測で、今一息の踏張りは必要であらう



志賀要平氏 (三十三歳)

職 業—醬油醸造業
事務長—小野禮一氏
経 歴—帝國軍人分會長 方面委員
農會總代

志賀氏は三十三歳の青年だが大器らしい大きな抱擁力を有する點は町議候補者中随一であらう、今回初陣には新町の小さい地盤を土臺に秘策を練つてゐるが甲の中位の戦績らしい、兎に角當選だけは確実であらう



藤社重吉氏 (五十六歳)

職 業—造船業
事務長—小高源七氏
経 歴—前町議

氏は性温厚にして確乎たる信念を藏する努力の人であつた、今回の選挙も理想選挙を振りかざして精進してゐる、情勢は當選圏に入つた模様で先づ甲の下位を思はしめる、今一段の努力は必要であらう



小野忠春氏 (三十七歳)

職 業—海産物製造
事務長—小野庄兵衛氏
経 歴—

小野氏は總ての名譽職を顧みなく孜々努力し現任にては海産物製造、漁業方面への投資と迄漕付けた有爲の青年で茲に初めて町議として第一線に樹つべく立候補したものだ、性豪放果敢の影を映せしむる人だ、然るを相俾して其短處を指摘し自ら自治の機關を指導する場合同様にあらゆる事やとの感をもつてゐる、其の一、二の例を引用するに、いや現在の町政は順常を欠いてゐるとか、本末を顛倒して居るとか、片手庇益であるとか、或は與黨を組んで横暴であるとか、又漁業利率の改正を要求するとか、機軸は町の鬼門にあるとか、河川の修築は真中ばかりやり兩端は放りばなしとか、軌道取れば割があつるとか其言ふ處一



三代義勝氏

職 業—漁業 魚肥製造
事務長—谷寅之助氏
経 歴—

三代氏は小名濱に居を卜して十一年其間鮮魚商、魚肥製造、揚操漁業と目録しき活動と進出で他を顧るの餘暇はなかつた今回初めて大小名濱の町議たるべく立候補したもので、性豪放にして孔急を斷つる果敢に富む漁業家型の人である今回の戦績は樂觀はゆるまぬが三代ファンに根柢な支持で當選の榮冠は贏する人であらう



私書閣

製造、揚操漁業と目録しき活動と進出で他を顧るの餘暇はなかつた今回初めて大小名濱の町議たるべく立候補したもので、性豪放にして孔急を斷つる果敢に富む漁業家型の人である今回の戦績は樂觀はゆるまぬが三代ファンに根柢な支持で當選の榮冠は贏する人であらう

律一様ではない、勿論自己論同町長の人格の然らしむる處であつたことは言ふまでもないが友僚相成したるも腹々見る處であるが擴げても包む品が無くしては困ると思ふ、此度の立候補の挨拶又は推薦状に見るも事業堆積せる小名濱躍進論上の大小名濱當選の上は大に馬力をかけて發展の基礎を作ると、よろしく信頼を乞ふべきの豪語は偉なりと稱すべきで、元來信念の燃ゆる理想の盡くものでない此度の進出は偶然の事か或は豫定の行爲か何れにせよ覺悟を背景として自己の躍進を決心の辭を固めて行動すべしと論を待たない、從來十八名の定員より一躍二十四名に突進せる盛況は果し然るべきの要求なる一否一決の不安を感ぜざるを得ない先回の選挙も人物の沸底より無競争の状態で進出した、然るを斯くも急激なる進出は餘りに時代を超越する行爲で即ち疑懼の念を抱くものである、されど其信念抱負の確立せる不拔の氣根と相俟つて行動するに於ては我が町の將來多幸なるに稱するべきであらう、如斯にして名實共に力ある町勢を進展して期待に添はんとすることを希望して止まぬ次第である愈々當選の上は健かに論議の驍將として獅子吼せらるるは天職と言ふまでもない、されど其言ふはんと欲する處の理想は百人百種である、其理想を協力して兵も強く國家も盛んになる、然るを相俾して其短處を指摘し自ら自治の機關を指導する場合同様にあらゆる事やとの感をもつてゐる、其の一、二の例を引用するに、いや現在の町政は順常を欠いてゐるとか、本末を顛倒して居るとか、片手庇益であるとか、或は與黨を組んで横暴であるとか、又漁業利率の改正を要求するとか、機軸は町の鬼門にあるとか、河川の修築は真中ばかりやり兩端は放りばなしとか、軌道取れば割があつるとか其言ふ處一

十七日執行の小名濱町議選は午後七時から左記諸氏立會で開票、遅くとも十時までは當選の結果が判明するだらう

立會人は四氏
尚立會人は初川茂藏、藤社大、鈴木富太郎、中野之助の四氏で發議人は一候補制で候補者共十名である

夜十時、當落判明

立會人は四氏

尚立會人は初川茂藏、藤社大、鈴木富太郎、中野之助の四氏で發議人は一候補制で候補者共十名である

清き一票
明るい港